

少人数のコの字形 対話進む

今回は教室のお話です。それも机の並び方について。

自由の森学園では、教室の机の並び方は担任と生徒の希望に委ねられています。かつて個々の机を取りはらって自作のテーブルを制作したクラスもありました。現在は、列をつくって前を向いて配置される形式と、生徒同士が対面する形式とに大別されます。今年度の高校1年生6クラスのうち、対面する「コの字形」が5クラスでした。

もう1クラスは、基本的には全員前を向いているのですが、やや中央に向き合う形です。担任によれば「国会議事堂型」。2年生、3年生と比べてもコの字形が断然多いのが特徴です。

生徒に考えを聞いてみました。「意見を言う時お互いに顔が見えているから

机の並び方

まなぶ

議論しやすい。それで白熱することもある」「顔が見えている方が安心できる」などとおおむね好評価でした。ただし難点は「掃除がしにくいこと」だそうです。

教師はどう受け止めているのでしょうか。新任の数学科のIさんに聞いてみました。「コの字形の方が生徒間の間隔が狭いこともあって、グループで話がしやすく、個別対応もしやすいなどプラスに働いている。全員が目が自分に向いていると緊張があり、視線が一方向でないことでストレスが少ないです」

英語科のKさんはこう語ります。「採用される前にホームページで授業風景を見て、あんな教室空間で働けるといふことへの安心感があった。生徒との距離が遠くないこと、中央のスペースで話ができることや、生徒に近づいて発音を聞け

ることが利点。隣同士で教え合う生徒間の距離の近さや、全員が教室全体を見渡せることがいい」

コの字形の教室はそれまでの授業のあり方を変える可能性をもっているのかもかもしれません。

自由の森学園では、教師から生徒への知識伝達型授業を改め、対話・思考・表現型の授業をめざしています。机の配置問題はそれと密接に絡みながら存在しているようです。ただし、教室は生活空間でもありますから、その使い勝手はやはり担任と生徒たちに委ねるべきではないかと思っています。

ちなみに、自由の森はできるだけ少人数のクラス編成をとっています。意見を聞いた高1のクラスで29人。これがもし40人だったら同じ結論になるかどうかは分かりません。

（自由の森学園高校校長
鬼沢真之）